

あとがき

ここに、共同対人援助モデル研究10を刊行することができました。この号は、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「大学を模擬社会空間とした自立支援のための持続的対人援助モデルの構築」の終了にあたり、その成果の一部をまとめたものです。この事業のまとめ役を仰せつかっておりましてので、最後にひとことご挨拶申し上げます。

このプロジェクトの目的は、立命館大学の特色と現在に至る研究実績を踏まえ、「大学」という研究資源をもつ有機的な場を、高齢者・障害者等の支援の機能的・地域資源あるいは継続的シミュレーションの場として構造的に活用し、地域で相互に関係し合う人間生活のあり方について、実証的に検討することにあります。立命館大学は、地域に開かれた大学としてその特色を培ってきました。また近年では、人間科学研究所 学術フロンティア推進事業「対人援助のための人間環境デザイン」、オープンリサーチセンター整備事業「臨床人間科学の構築—対人援助のための人間環境研究」などの事業を通じ、高齢者・障害者(児)、(男性)介護者、外国人、といった人たちのウェルビーイングを向上させるための基礎的・実践的研究を行ってきました。このプロジェクトでは、これまでの個別研究プロジェクトの研究の高度化をはかるとともに、様々な人々が相互に出会い社会的役割を担うことのできる地域を創造するためには、どのような物理的・社会的・情動的支援が最も有効かを組織的・系統的に検討しました。

来年度以降はさらなる発展・展開を予定しております。この「共同対人援助モデル研究10」がその礎になることを願っております。最後となりましたが、本プロジェクトの事務局として、ご尽力いただきました立命館大学研究部リサーチオフィス(衣笠)小栗栖裕生氏、荻野純子氏、三牧知子氏、難波しのぶ氏に厚く御礼申し上げます。

2013年3月9日

立命館大学
事業リーダー
土田 宣明